

令和 7 年 9 月定例

中標津町教育委員会議事録

令和7年9月定例中標津町教育委員会

1 日 時 令和7年9月29日（月）10時00分～10時20分

2 場 所 中標津町役場3階301号会議室

3 出席者

教 育 長	山 田 康 司
委 員	義 盛 幸 規
委 員	細 谷 俊 輔
教育部長	山 宮 克 彦
教育指導監	横 山 裕 充
指導室長	中 川 律 子
管理課長	桐 島 秀 一
学校施設主幹	高 橋 大 樹
学校教育課長	下 村 浩 次
社会教育課長	七 條 隆 志
農業高校事務係長	川 口 進 二
学校給食センター長	加 藤 崇
総務係長	三 浦 諒
書 記	鈴 木 佐 奈

4 欠席者

委 員	青 山 幸 子
委 員	高 橋 幸 子
教育指導監	二本柳 千 尋

5 傍聴者 なし

6 議 題

議案第18号 教職員の処分内申について

報告第6号 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

【開 会】

○教育長

ただいまから、9月の定例教育委員会を開催いたします。

高橋委員及び青山委員は私用のため欠席ですが、過半数の出席がありますので、会議は成立します。

本日の署名委員は、義盛委員と細谷委員です。よろしくお願いいたします。

本日の議題は、議案第18号 教職員の処分内申について、報告第6号 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果についてとなっています。

議案第18号は町立学校職員の懲戒処分に関する事項です。中標津町教育委員会会議規則第10条第1項第4号の規定により、公開しないことにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(委員から「異議なし」の声あり)

○教育長

それでは、議案第18号は公開しないこととします。

◎議案第 18 号 教職員の処分内申について

非公開

◎報告第6号 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

○教育長

続いて、報告事項に入ります。令和7全国学力・学習状況調査の結果についてお願いします。

○指導室長

それでは私の方から令和7年度全国学力・学習状況調査の中標津町の結果について報告いたします。添付した資料は、中標津町教育委員会のホームページに掲載されるものです。

今年度の調査は小・中ともに国語、算数、数学、理科を実施しています。中学校理科についてはCBT化といってタブレットを使って、ウェブ上で回答する方式をとっており、それにより中学校理科のみIRTスコアという形で結果が出ています。IRTスコアは各受験者の能力と問題の難易度を統計的に分析し、公平に能力を測定するための数値になります。

質問調査の状況では、タブレットの活用率が向上したことにより、授業で友達と協力しながら、学習に取り組む良さを感じている児童が多かったり、自分の考えを発表するときにタブレットを使って考えを整理したり、より良く伝わるような方法を考える生徒が多いことがわかりました。

教科に関する調査の状況では、全国と比較すると全てにおいて、全国より低く算数・数学に課題がみられます。算数・数学は学んだことが積み上がっていく教科です。算数・数学の授業をよくわかるかという質問に対して、わかると回答した児童、生徒が少ないことからその学年で身につけないといけない力が身につけていないまま進級し、授業に参加してもわからない状態の児童、生徒がいることが考えられ、授業改善が必須と考えます。

授業改善については子ども主体の授業への転換を目指して、各校で研修を深めてもらっているところです。子ども主体の授業をするために教師側の授業のイメージを変えること、子どもを見る教師の目を高めること、体験活動の中で子どもたち自身が自分で実践して行動することに自信を持って取り組むことを通して、自己肯定感を高める必要があります。先生の話をおとなしく聞いているだけの授業、誰かが発表してくれるのを待つだけの授業では、子どもたちはなぜ学ぶのかがわからなくなり、学ぶこと自体が嫌いになります。

今年度、指導室では各校の研修部長を集めて、授業改善に向けた研修会を行ったり、管理職の先生方に向けた子ども主体の授業づくりの参考となる動画を見ながらの研修会を行ったりしています。また、子ども主体の授業をやってみたいと意欲的な先生方と一緒に、学習の一つのまとまりである単元をまるごと一緒に考え、授業実践を行う取組もしています。

子どもたち自身が主体的に学びに向かい、「わかった」、「できた」、「もっと学びたい」と思える授業を先生方が実践できるように引き続き指導していきます。私からは以上です。

○教育長

報告第6号について説明がありました。ご意見・ご質問がありましたら、お願いします。

○義盛委員

分析ありがとうございます。やっぱり見ていて、算数・数学、図形が弱いというのは昔からそうなのでしょうけれども、これはそもそもどういう傾向で図形の問題の理解が深まらないというふうに想定されるのでしょうか。

○指導室長

おそらく、実際に手元で作業するということをしていないまま、教科書で書かれていることを黒板で先生が説明して、それをただ聞いて子どもたちがノートに書くだとかをずっと続けていたので、多分子どもたちの中にイメージがついていないんだと思うんですよね。

実際やっぱりこの図形を動かしたり、作図をしてみたりだとか、それが今はタブレットでできるようにはなっているんですけども、そのタブレットも算数・数学、図形のところでも生かしきれていないというところがあるのかなというふうに思います。

○義盛委員

応用が利かないですよね。ちょっとだけ違う数字になったりだとか、形が若干複雑になったら対応できない。それと言語能力ですよね。問題を読み込むこういうのをタブレットで改善できる見通しはあるんですかね。

○指導室長

一応その教科書のところに動画として動くものとかが付いていたりもするんですよ。それを読み込んで動かしてみたりだとか、実際今使っているタブレットでも回転してみるだとか、移動したりとか、そういうことはできるんですけど、そこまで先生たちが使いこなせるようにまだできていないところがあるのかなと思います。

○義盛委員

理解しないまま次のステップに行き、また次のステップに行き、要は積み残しがあるということにすごく危惧を覚えるわけですよ、僕は。これをできる子はそのままどんどんステップアップしていったって問題なくいくんでしょうけども、そのギャップが大きくなっていくと思うんですよ。

○指導室長

学年が上がれば上がるほど、その学年で学べなかったことをわからないまま次に行くので解けない。ただ、上の学年の先生たちが授業をするときに、一人一人の子どもたちのどこが落ちているのかということ把握した上で、その復習も兼ねつつ、その学年の学習をという授業を作らなきゃならないんですけど、なかなかそこまで今、先生たち自体も授業をつくるというところで1時間、1時間の授業をこなすことで精一杯になっているので、今指導室では単元まるごとで考えて、なおかつ、その学び残しがあることに対してのフォローもしつつ、単元を考えるというふうな授業づくりを実施しているところですね。

○義盛委員

すでに先生方は指導力向上のために頑張ってくださっているように見受けられますし、それでいてなかなか効果が出ない、目に見えないということを考えたときに、積み残しの部分がどうしても補いきれないというところに要因があるんじゃないかなと思うんです。そう考えたときに、先生方の努力の方向性を指導力向上、まあ全体的にボトムアップできたら一番なんですけど、限られた時間だと考えたときに単元ごとの理解を目標のところまで持っていくことを最優先にすべきかなということと思うんですけど、それじゃあやっぱりほかの子たちは物足りなかったりする。

○横山指導監

そういうことではなくて、そもそも算数・数学に関しては解法のテクニックばかりをやるんですよ。どうしてそうなるのかということを考えていくことが重要なのに、こういうふうに解けば答えが出るんだよという、要は答え合わせの授業になる。そうすると解けなかった子どもたちがそのまま積み残されていきます。さっき室長が説明したように意欲面ですね。子どもがこんなふうやってできたというふうになったときに、そのできなかった分まで後の学年でフォローできるようにするんです。

ところが、解法のテクニックばかりをずっとやっていたならば、その繰り返しですので、できなかった人間がずっとできないまま、どこかで意欲を高めようとしても、その時点でフォローが利かなくなるんです。なので、授業の中身として、子どもたちがどうやってすれば答えを導き出せるんだろうかという作業をしたときに応用が利くようになります。そうすると前のやつまで後の学年でフォローできることになる。積み残しというふうになるのは、結局授業の中で単発的にこういうふうにしたらこう解けるということだけをずっとやってる授業形態そのものに問題があると思っています。

だから、今ずっと指導しているのは、とにかく解法ではなくて、子どもたちがどうやって、どうしてそうなるのか、何をしたいのか、そういうふうはどうやって解決していくのかということの道すじ、これはずっと言われていることなんですけども、問題解決を自分たちがするというのをやって面白くなってきたら、できなかったことまでフォローしていくようになると思う。そういう授業の在り方を変えていく、子ども主体と言われているんですけど、そもそも子ども自身が問題解決していくというのは古来言われてきたことで不易なことなんです。それをすべき時だと思っています。

どうしても、特に中学校になると目の前にのしかかるので、解かせる、答えを導き出させるんだということが手腕になってしまって、解法のテクニックに走りがちなんですけども、その部分をもうちょっと子どもたち自身が考えるようにするという授業展開を考える、まあ直してもらおうと変わっていくんです。

○義盛委員

それは低学年であればあるほどということなんですか。

○横山指導監

そうです。もう1年生から。

○義盛委員

大変な中、引き続きご苦勞をおかけします。よろしくお願いします。

○細谷委員

よろしいですか。今、室長、指導監の話を聞いて思う部分があったのですが、今回の中学生の平均点って数学は39点ですけど、中1でも多分このぐらいだと思ふんです。ということは、中学校に入ってからもう授業の中身を理解しきれていない。中1だともうちょっと点数が出て、そこから下がっていくイメージならまだわかるんですけど、中1で困ってる子はそもそも多分小学校でいう5年生、6年生の授業が多分理解できていないんだなと。普段の先生との関係性で子どもたちの授業に対する意欲というか受け入れ方って変わってくるのかなと思って、もちろんサポートの先生ですとか副担任もいますが、担任と生徒の関係性というのはもっと意識していただいて、その関係性が悪くなるのであれば、何かテコ入れが必要になってくるのかなという気がしました。あとはどうしても積み重ねという部分で、国語とか理科とか社会とかは、単発面を頑張ればまた追いつけるんですけども、数学ってやはり基礎がないとどんどん授業で取り残されると思うので、テストをする前に普段の授業でもこの子についていけないんじゃないか、ついて行けてないかなというのがあれば何か手の打ちようはあるのかなとは思いますが、そういったことをやっていかないと数学に関してはどんどん点数が下がってしまうかなと。指導監からもお話あったように、やっぱり子どもたちって楽しければ頑張ると思うんですけど、もうすでに嫌い、ついていけないから楽しくないという感じなんです。なのでそこをもう1回引き上げるために何か手を打っていかないと危険な感じはしていて。期末テストが終わってからは、7年生の中で塾に通わせなきゃという親が増えているんです。塾通わせなきゃとか、あとは誰か家庭教師いないだろうかという話が上がるくらい、今7年生の学力の低い子たちの差が顕著に出てしまっていて、親御さんも7年生でこれはさすがにないだろうという意識になってしまっているんで、そこら辺を学校単位でも僕に関しては計根別学園の内情しかわからないんですけど、広陵、N中に関しても聞いていただけたらと思いました。以上になります。

○教育長

今の意見に関して何か指導室からありますか。

○横山指導監

その実態はどの学校もあるということでN中、広陵でも同じですね。要は1がつく成績の子がどれだけいるんだというくらい多くて、尋常でない状態であるのは確かです。なので、そもそも授業を変えなければならないというところでは、今取り組んでいるところでございますが、なかなか従来からの慣習といいますか、目の前の高校入試ではこうなんだというところが抜けてないです。そこを変えていかなければならないということは取り組んでいる最中です。

それこそ計根別の先生たちも一生懸命、僕のところに来てどうやって授業をつくるのかというのをやっていますので、ここからスタートするのかなと。あとN中、広陵も同じように授業づくりをするのでお願いしたいということで、今個別に何とかしようと動いている最中なので、すぐには結果は出ないですけど、先生方の意識及びそれに付随して子どもたちの意識が楽しいなというふうになってきたら、そこはまず良いのかな、成績に即反映しないにせよ良い兆しが出れば良いのかなと思っています。頑張ってはきています。今のところは進めようと思っていますので、もうちょっと見ていただけるとと思います。

○細谷委員

よろしくお願いします。

○教育長

よろしいですか。

○細谷委員

はい、ありがとうございます。

○教育長

それでは報告第6号については承認されました。

以上で議事は終了いたしますが事務局から何かありましたらお願いします。

○管理課長

はい、別紙で両面の教育委員視察研修の資料をご覧ください。

令和7年度中標津町教育委員研修について説明いたします。今年度については、従来型の高校教育の枠を超えた革新的な取り組みについて、大空高校の視察をメインに計画しております。日程は10月22日から23日、1泊2日の日程になります。視察内容は大空高校にて学校概要の説明、学校施設・授業見学を予定しています。参加者は教育長、教育委員3名、部長、二本柳指導監、管理課長、総務係長8名で公用車で移動を予定しています。宿泊先は網走市内のビジネスホテルを予定しています。

裏面をご覧ください。このようなスケジュールになりますが、10月22日10時に役場に集合していただき、東藻琴で昼食後、13時から15時まで大空高校を視察、網走市内で施設見学後、ホテルチェックイン、夕食になります。10月23日9時に移動を開始し、道の駅に寄って、12時に役場解散を予定しています。詳細については後日改めてお知らせいたしますので、ご準備をいただきたく思います。

以上、教育委員視察研修の説明になります。

○教育長

この件に関して何かよろしいですか。

それではほかに事務局から何かありますか。

(事務局から「ありません」の声あり)

○教育長

なければ委員さんの方から何か。

(委員から「ありません」の声あり)

○教育長

それでは、本日の会議日程はすべて終了いたしました。

本日は大変お疲れ様でした。